

## 平成29年度第2回津島市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成30年2月21日（水）  
午後2時00分から午後3時10分まで
- 2 場 所 市役所3階 市長公室
- 3 出席者 （構成員）市長、教育長、教育委員会委員  
（事務局）市長公室長、教育委員会事務局長、指導主事、  
企画政策課長、学校教育課長、社会教育課長、  
ほか担当職員2名
- 4 議 題 （1）市長が教育に関する施策の大綱において取組んできたこと  
（2）平成30年度予算について

### 5 内 容

- 開会
- あいさつ
- 議題

（1）市長が教育に関する施策の大綱において取組んできたこと

（事務局）

目標1 学校教育（これからの社会をよりよく生き抜くために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体の育成）において

- ・総合的な子どもの基礎体力向上事業（SKIP）では、学校教育における体力づくり、地域における運動や外遊びの機会の確保、家庭における生活習慣の改善から、基礎体力の向上に取り組み、健康に生活をする体力のベースを築き上げていくものである。初年度には、のぼり旗を作り、各小中学校へ配布し取組への士気を高めた。各学校において、体育の授業でサーキットトレーニングを行ったり、独自の体操を取り入れているところもある。蛭間小学校においては、愛知県教育委員会より、体力づくり優良校として顕彰された。
- ・学校給食推進事業では、第3回津島市給食献立コンクールで家庭の自慢料理を募集したところ、応募件数は1,108点あった。各小中学校から入賞作品1点を選び、メニューの1点になっている。
- ・給食費については、給食の材料費の上昇から、平成28年9月に小学校が240円から270円へ、中学校が270円から300円へ、幼稚園が250円から280円へ変更。なお、変更差額の30円のうち、半分の15円を市が補助している。

目標2 環境整備（児童生徒が安全で安心して学べる環境づくり）において

- ・教育環境の整備については、公共施設等総合管理計画に基づいて校舎等の改修・整備を進める。改修・修繕として、一部トイレの洋式化改修、防火防煙シャッターの取替工事、放送設備の取替修繕、扇風機の設置、中学校への防犯カメラの設置、太陽光パネルの設置、吹奏楽の楽器購入などを行った。
- ・防災教育の現状把握・見直し、訓練等の実施では、平成29年11月11日の神守中学校区合同防災訓練において、神守中学校区で学校と地域が一体となって防災訓練を実施した。小学生児童と中学生と一緒に通学団集合場所より地区の小学校へ避難を行った。
- ・市内小中学校への「家庭防災の日」の周知については、児童・生徒の命を守るために必要な取組であると考えている。家庭で防災のことについて話すきっかけとして、家族の会話にも繋がり、同時に家族への周知にもなると考えている。
- ・就学援助制度については、就学予定児童の保護者への新入学学用品費の入学前支給の実施を平成29年度から行った。
- ・校務支援システムの導入については、教員の働き方改革にあたり、校務支援システムを導入することにより、教員の業務負担を軽減し、教員が児童生徒と向き合う時間を確保する。また、学校が保有する個人情報のセキュリティを強化する。

### 目標3 能力育成（未来へ飛躍する人材の育成）において

- ・国際理解教育については、小学校において様々な国と国際交流事業をおこなった。東小学校では、11月に在名古屋米国領事館を通じて、アメリカの文化や生活について6年生を対象に講演を行い、また領事館の首席領事よりビデオメッセージをいただき、より親しみをもつことができた。
- ・同月に在名古屋ペルー共和国総領事館総領事が、神守小学校6年生を対象に、ペルーの文化や生活についての講演を行った。講演後には、児童からの質疑に答え、より身近な話題で親しみが湧くものであった。児童からは「コンドルは飛んでゆく」の合奏でお礼をした。
- ・南小学校では、駐名古屋大韓民国総領事館を通じて、韓日交流事業に取り組んでいる。6月から韓国文化出前授業として韓国の食べ物、韓国の子どもたちの遊び、韓国の衣服、韓国の言葉について、講師によるお話を聞く活動を始め、韓国の生活や文化の理解を進めた。11月には、韓国の東山初等学校の児童ら31名が、南小学校を訪問し、教職員や児童との交流、ホームステイを通じて、相互理解と友好を図った。
- ・7月には、中国より長安第一小学校の児童29名と引率者・保護者等が来津。市内小学生児童29人（保護者も）が参加し、長安第一小学校の代表による、演舞などの披露、水墨画交流などを行った。また、市長への表敬訪問の際には、お抹茶や琴の演奏など日本の文化に触れてもらいながら交流を深めた。
- ・2月には、一般財団法人地球子ども村の日中青少年文化交流により、北京国芸

小児京劇団、江蘇省淮安市バイオリンVIP芸術団ら74人が、地球子ども村理事で中国琵琶演奏者、中部大学教員の宗ティンティン氏のはからいにより来津した。蛭間小学校全児童に京劇団の演劇、バイオリン、フルートの演奏の披露があった。また、6年生児童と中国の子どもが相互に友好のプレゼント交換を行い、交流を深めた。

- ・10月9日（月・祝）～11月19日（日）に津島市観光交流センターにおいて、名古屋駐・在の海外総領事館・領事館とのタイアップ交流事業が開催され、県内にある6カ国、アメリカ、ブラジル、中国、韓国、カナダ、ペルーの紹介や催しが開催された。

#### 目標4 地域連携（学校・地域・家庭が連携した教育力の向上）において

- ・11小中学校において、学校支援地域本部を設置し、地域住民等の協力により、授業の補助や学校環境整備等、学校を支援する体制として取り組んでいる。例えば、天王中学校の地域未来塾など。また、神守中学校においては、豆ボラを始め、土テラ・月テラなど、地域と協働した活動に取り組む地域学校協働本部を設置し、コミュニティ・スクールの取組へ移行していく準備を進めているところである。

#### 目標5 生涯学習（魅力ある学習内容が提供され、市民が自主的に取り組む生涯学習活動）において

- ・放課後子ども教室の定員数の増員、61回目の文化祭美術展の開催等を行った。

#### 目標6 スポーツ振興（市民が主体となってスポーツに取り組める環境づくり）において

- ・錬成館の耐震化、「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」の開催をした。ラジオ体操については1,240名の大勢の市民が参加した。

#### 目標7 歴史・文化（郷土の歴史・文化への関心を深め、歴史的遺産の保護・継承・活用を通じて郷土愛を育む）において

- ・「山・鉾・屋台行事」ユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組についての連絡協議会事業において、県下5市1町（津島市、愛西市、知立市、犬山市、半田市、蟹江町）によるユネスコ登録に向けた総会・研修会を実施した。平成28年12月1日に尾張津島天王祭の車楽舟行事を含む「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産への登録が決定し、平成29年1月14日には記念事業として「祭りシンポジウム」を開催した。
- ・堀田家住宅、氷室家住居については、どちらも老朽化が進んでおり、修繕等の課題があった。利活用について検討を進めている。
- ・歴史・文化学習事業として、尾張津島天王祭朝祭の見学会を平成27年度から実施し、津島の祭りについて児童が深く学べる取組をしている。平成29年度は54人の参加があった。

## その他

- ・学校へのエアコン設置、高校生の私学助成を復活、通学路の安全確保に取り組んでいる。

### (奥村委員)

- ・子どもを取り巻く環境が段々厳しく、市の財政も厳しい。子どもの数が減っている中、なかなか手厚くするのが難しいのは分かるが、これらの取組を更に掘り下げて次世代の子どもたちに受け継いで、語り継いでいかなければならないと改めて感じた。

### (川村委員)

- ・厳しい財政の中で、子どもが減っているというのは、止められない事実である。今いる子どもたちに対してやってあげるのは勿論だが、環境を整備して、津島市がいい、子どもたちが住みたいと思えるまちづくりをしてほしいと思う。

### (猪飼委員)

- ・国際交流が絡んだ様々な取組をされている。市として継続的に推し進めていかれるという予定か。

### (市長)

- ・できれば継続的にやりたい。この事業のふれあいの中で、子どもたちの目がキラッと輝く時がある。異文化体験では中国の子どもたちが、具体的、リアルな話もしてもらえた。これも必ず次に繋がっていくと思う。なかなか予算は厳しいが、領事館を通じての働きかけでできた。

### (猪飼委員)

- ・私も何度か参加した。やはり子どもたちが直に接することによって、生活習慣や文化の違いを肌で感じている。市長の考えを国際交流協会等と上手く連携していただいて広げていただきたい。
- ・スポーツ庁が実施している体力面で県の評価が一番下で続いている。足袋の生産地である行田市で、学校で子どもたちが足袋を履き1年間過ごすというようなニュースがあった。ぜひ津島市でも何か特徴のある体力づくりに繋がっていくようなことができるといいと思う。

### (小出委員)

- ・津島市は財政が厳しい中、新しい事業をいろいろ実施して子どもたちに夢や希

望を持たせるような工夫をしている。外国人との交流は、自分ひとりではできないことだが、学校全体で友達と一緒に参加・交流できるという嬉しさ、そんなことが子どもたちには非常にいい体験になっていく。限られた予算の中ではあるが、何か子どもたちに新しい夢あるいは希望を持たせるようなものをしていただけるといいかなと思って、学校生活を見ている。

- ・自分たちの身近で活躍をしている人がいる、津島市の誰かが市の話をする、ひょっとすると大人との繋がりを作って津島市に愛着を持ってくれるのかなと思う。津島で活躍していらっしゃる方たちが学校に出向いて子どもたちと話をする。子どもたちにとっては、大人というのが身近に感じ、しかも津島市を身近に感じることができるのではないかな。
- ・私が近所を散歩していると、子どもたちが挨拶をしてくれる。「今日何があったの?」と聞いたり、「おじさん、今なにやっとなの?」「何にもやっとなんよ。年金のお蔭で…」(笑)。そこで年金ということは分からなくても、それでも「年金」という言葉をそこで覚える。そんなようなことで何か津島市をよく知っている方が子どものところへ親しくお話をする機会があればと思う。市役所見学も面白いと思うが、職場体験で中学生は市役所へは来られるのか。

(太田指導主事)

- ・市役所は入ってないと思う。個人情報のことや、条件がある中で中学生を受け入れ、自由に体験するには業務の特性上難しい面もある。

(小出委員)

- ・市長が時々学校へ行かれることがあるのでこれは非常にいいことだと思う。そういうところで子どもと市のことについて話をされる機会もあれば、また校長先生や先生と話をされるのも勿論いいと思う。市の方と子どもが接する機会が少しでも増えれば何か変わってくると思う。そのことを感じながら様子を見ている。

(教育長)

- ・S K I Pについて。行田市は足袋を使ってやっているということだった。津島市はのぼり旗を作り、市内に知らせていただいたが、学校が何を欲しがっているのか。跳び縄やステップをやる輪っか等の用具など、学校の要望を聞いていただきたい。
- ・この要綱のS K I Pの目標は三つあり、今主にやっていることは、学校における体力づくりであり、それ以外の2つである地域や家庭での体力づくりにもう少し目を向けないといけない。私の反省を含めてである。スキップで健康や体力を作るとするのは、市長の思いと一緒にである。
- ・国際理解教育、これは私も大変すばらしいことで教育課程にもある。県内に6

つの領事館があるのでそれを活用していくことは良いと思う。

- ・市長も続けたいという方針を答えられたが、今後どのような目標で、どこまでやるのか、どう対応していくのかをしっかりと考えないといけない。今回韓国や中国の方がホームステイにいらっしやった。当初の予定は30人だったのが倍になり、学校の方は対応に手間取った。また相手方は、今度はこっちにホームステイに来てほしいと、来たら来てくれるのが当然だというようなことをおっしゃっていた。学校側は作品交換くらいを考えていたということである。もちろん、今回せっかく来ていただいたのだから、喜んで帰っていただくおもてなしをしたい。相手方も劇等芸術体感など一生懸命やってくれた。しかし、いろいろと状況は変わり、その対応はとても大変であった。教育委員会は私と局長と課長の3人で対応し、次にシティプロモーション課の職員が案内等をしていただいた。これも大変だったと聞いている。これだけのことをやっていくには、人と部署がいる。ほかに、教育委員会も平常業務を差し置いて全部それに対応しに行ったこともあった。最初の計画になかったものである。これからきちんとしていく必要があること。この事業はいいことであるが、やはり途中でいきなり予定が入ると学校も担当も非常に大変である。
- ・コミュニティ・スクールについては、市長も地域で子どもを育てることについては賛成をしている。平成28年に防災教育とコミュニティ・スクールが総合教育会議の議題になり、ぜひやりましょうという話になっている。教育委員会において進めているが、それを進めるためには地域への認知度・周知が足りない。一生懸命それぞれのコーディネーターの方がやっているが、地域の人に言うところ「なんだ、それは。」と、いう話になっている。市長もどうかここで合意形成をしていただいて、宣伝をしていただけるともっと周知ができるのかなと思っている。

(市長)

- ・SKIPは、市全体で取り組んでおり、各学校の特徴を生かしてやっている。共通のテーマや目標があると良い。将来のために、自分の体を自分自身で鍛えていく。
- ・国際交流はやってみて改めて気が付くことがあり、日本のような時間やスケジュールの管理が、外国の方はおおらかであり、急に変更したり、決まったりする。先ほどの話のように、人数が倍になると、本当に現場では大変である。そうであるが、やはり何とか将来の子どものためにということでやっておるわけである。例えばICTを活用し、スカイプなどを使って映像的にできる形で何かできると面白いなと思う。翻訳アプリも本当に大変便利であるので対話するにも、文明の利器を利用しながら継続していきたいと思う。
- ・学校の負担については、小中学校は非常に大変ですので、最小限にしながらやっていく、というような考えもいる。

- ・施設は、公共施設等総合管理計画において31%を廃止しないと津島市もこの40年間で生き残れない。耐震改修が完了している学校を防災に限らず地域の拠点にする。修繕計画を立てて、補助金をいただき、不具合なところを直して整備を完成していきたいというような方針である。
- ・防災の取組として、貯水量40tの耐震性貯水槽の整備を進めている。平成29年度は神島田小学校、平成30年度高台寺小学校、平成31年度は蛭間小学校で予定している。また、又吉配水場から市民病院間の幹線水道管の耐震化も同時に進めている。

## (2) 平成30年度予算について

### (事務局)

#### 学校教育課予算について

- ・平成30年度予算は、平成30年4月に市長選挙を控えていることから、義務的な経費、継続的な経費及び年度当初からの執行が必要な経費を中心とする「骨格予算」として編成されている。
- ・教育委員会にかかる予算については、事務事業費12億8千547万5千円で、対前年比98.1%となっている。
- ・学校教育課所管に係る予算は、9億4千327万円で、新規事業の計上はなし。全体として、対前年度比で3千万円ほど減額となっている。増減の主な事業として、学校保健給食費、就学時健診における校医の報償費等、生徒の減少により、減額となっている。
- ・学校からの要望事項で、各小中学校へ配布するゴミ袋の購入費用や、小学校の運動場の砂塵対策として、塩化マグネシウムなどの費用を予算計上している。

#### 社会教育課予算について

- ・社会教育課の予算は3億4,000万円程度である。
- ・平成30年度の主なものは社会教育総務費の文化財修理費補助金の中の尾張津島天王祭鉄船塗裝修繕補助金143万5千円である。これについては、尾張津島天王祭の車楽舟行事が、平成28年12月1日にユネスコの無形文化財遺産に登録されたタイミング、鉄船が老朽化していることもあり、平成29年度から平成31年度にかけて市江車を含む6車×2艘の塗裝修繕を行うというもの。
- ・山車蔵修景整備事業補助金の3,557万円は無形民俗文化財津島秋まつりの山車の保管のための収蔵施設の建設及び修繕する事業に対する補助をするもの。基本的な補助率は80%であるが、窓の設置とかお囃子の公開練習する、そういったものをした場合は85%となる。財源には、社会資本整備総合交付金の4割と歴史・文化のまちづくり基金から1千万円を繰り入れる。また図書館費、公民館費、生涯学習センター費、保健体育総務費、体育施設費等々について毎年度

計上するものである。

(教育長)

- ・ 苦しい財政の中、一生懸命教育に割いていただきありがとうございます。少し要望をしたい。
- ・ 一つ目は、大きな予算を伴う校舎の改修、あるいはトイレ、エアコン、これは難しいと思う。以前も話したが、ぜひ学校第一に考えていただきたい。
- ・ 二つ目は、大型の予算はなかなか回らないことは重々分かっているので、学校の要望として消耗品費を増やしていただきたい。例えば、修繕する箇所が多すぎて対応ができない細かな修繕である。次に、ごみ袋の無料配布。予算要求をしているが、一杯に詰めるように節約しても足りない。また、樹木が大変多く、樹木の剪定を市の OB がボランティアでやっていただいた。しかし怪我でもしたら心配である。そして窓ふきについても、高いところを子どもたちにやらせてはいけないし、先生でもなかなかやれないので、いろんな自治体では窓ふきを専門業者に依頼してやっている。わずかな金額でできることは、市長が教育に力を入れているということであるなら、やっていただけたらいいのかなということ。運動場の整備においても、ほこりが立てば、子どもたちの目や口に入り、近隣の住宅にも迷惑が掛かるし、ある学校は廊下が真っ白になる。ほこり対策にも予算を取っていただきたい。
- ・ 最後にひとつ。11月の臨時行政経営会議で市長は教育の環境整備をやっていくということをおっしゃった。その教育に対する思いを言葉に出していただきたい。まちづくりは人づくりであるので、時間をかけて説明していただいて、是非いろんなところで教育を大事にしているということ、教育政策を声に出していただけると有難いなと思う。

(市長)

- ・ ありがとうございます。教育というのは大事であり、次の津島を担うということになると、そこで受ける環境の整備について、大規模修繕は計画的にビジョンを作って、提案を受けたところからやっていきたい。教育に力を入れてやっていきたい。

○その他

(事務局)

次回の総合教育会議の開催は、平成 30 年度に市長選挙以降の開催を考えている。決定次第連絡する。

○閉会